

令和元年度事業報告書

I 会 議

1 総 会

(1) 第 64 回通常総会 令和元年 6 月 26 日 仙台市・JA ビル宮城 11 階第 1 会議室

会 員 総 数 66 会 員

出席会員数 65 会員 (本人出席 27 会員、委任状 38 会員)

議 案

第 1 号議案 平成 30 年度事業報告、決算報告並びに公益目的支出計画実施報告について

第 2 号議案 令和元年度事業計画並びに収支予算の報告について

第 3 号議案 令和元年度会費について

第 4 号議案 令和元年度役員報酬について

第 5 号議案 役員補選について

2 理 事 会

(1) 第 1 回理事会 令和元年 6 月 13 日 仙台市・JA ビル宮城 10 階第 2 会議室

議 案

第 1 号議案 平成 30 年度事業報告、決算報告並びに公益目的支出計画実施報告について

第 2 号議案 令和元年度会費について

第 3 号議案 役員報酬並びに費用弁償に関する規則の一部改正について

第 4 号議案 令和元年度役員報酬について

第 5 号議案 家畜畜産物衛生指導業務方法書の一部改正について

第 6 号議案 肉用子牛生産者補給金制度業務及び肉用牛肥育経営安定交付金制度業務に係る事務の委託について

第 7 号議案 役員補選について

第 8 号議案 令和元年度通常総会の開催期日並びに提出議案について

報 告 事 項

1) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(機械導入事業)の実施状況

2) 酪農経営体生産性向上緊急対策事業(労働負担軽減事業)の実施状況

3) 肉用牛肥育経営緊急支援事業に係る緊急支援金等の返還状況

4) 肉用牛肥育経営安定交付金制度に係る交付金交付状況

(2) 第2回理事会 令和元年6月26日 仙台市・JAビル宮城 11階第2会議室
議 案
第1号議案 副会長の選定について

(3) 第3回理事会 令和2年3月19日 仙台市・JAビル宮城 10階第1会議室
議 案
第1号議案 令和元年度事業計画並びに収支予算の変更について
第2号議案 令和2年度事業計画並びに収支予算(案)について
第3号議案 令和2年度一時借入金最高限度額について
第4号議案 一般社団法人宮城県畜産協会肉用子牛価格安定基金業務規程の
一部改正について
第5号議案 肉用子牛生産者補給金制度における第7業務対象年間の事務委託先
の承認について
第6号議案 肉用子牛生産者補給金制度における第7業務対象年間の事務手数料
の額の承認について
第7号議案 肉用子牛生産者補給金制度における第7業務対象年間の肉用子牛
1頭当たりの生産者負担金単価について
第8号議案 家畜死体冷却保管施設懸肉レール交換工事について
第9号議案 事務局長の任命について
報 告 事 項 1) 肉用牛肥育経営安定交付金制度について
2) 和牛DNA不一致に関する協会の対応について

3 監 事 会

(1) 第1回監事会 令和元年6月4日 宮城県畜産協会 会議室
監査事項 平成30年度事業報告、決算報告並びに公益目的支出計画実施報告
に関する監査

(2) 第2回監事会 令和元年10月1日 宮城県畜産協会 会議室
報告事項 「和牛の血統不一致」に係る本会の事業実施状況について

II 畜産経営支援対策事業

1 畜産経営技術高度化促進事業（宮城県：実績額 4,999,650 円）

畜産をめぐる情勢の変化に対応し、経営感覚に優れ生産性の高い畜産経営体の育成と指導者の養成を図り、経営体のレベルの向上と実態に応じた診断指導、調査等総合的な支援指導を実施し、畜産経営の安定と生産基盤の育成強化に努めた。

(1) 畜産経営支援指導研究会の開催

畜産経営技術指導を効果的かつ効率的に実施するため、畜産の実情に対応した将来の畜産経営指導の展開方向、具体的な指導内容・方法及び関係機関の機能分担等について検討協議するため、県及び関係団体をもって構成する総合委員会を開催した。

区 分	開 催 年 月 日	開催場所	出席者数	内 容
総合委員会	令和元年7月9日	仙台市	16名	①平成30年度実績について ②平成31年度畜産施策の基本方針と主要施策について ③平成31年度畜産経営技術高度化促進事業について ④各関係機関からの畜産における近況報告

(2) 畜産コンサルタント団の設置

大学、県及び畜産関係団体、学識経験者等幅広い分野の専門家をもって構成する畜産コンサルタント団を設置し、畜産経営体からの診断及び巡回指導要請に対応した指導を実施した。

畜産コンサルタント団設置の状況

総括畜産コンサルタント	畜産コンサルタント	非常勤畜産コンサルタント
2名	8名	24名

(3) 地域畜産経営体相談窓口指導

畜産経営体の支援指導を円滑に推進するため、日常的な経営体の状況把握・指導、地域における指導の連絡調整等指導相談の窓口を設置し、畜産経営体等からの延 105 件の相談・要請に対応した支援指導を実施した。

区 分	設置場所	担当地域
常 設	宮城県畜産協会 本 所	県一円
	宮城県畜産協会 仙南事業所	仙台、大河原管内
	宮城県畜産協会 中央事業所	大崎、石巻、登米、栗原管内
臨 時	みやぎ総合家畜市場（市場開設時）	県一円

(4) 畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に実施するため、コンピューター等関連機器を整備した。

(5) 畜産経営技術支援指導

畜産経営体の要請に基づき、その経営水準、実態等に対応した診断指導を実施し、

経営改善のための効果的な支援指導を実施した。

畜産経営技術の支援指導実施状況（個別指導）

経営区分	改善指導	経営管理 技術指導	フォローアップ 指 導	計	備 考
酪 農	1 件	19 件	4 件	24 件	
肉用牛	2 件	13 件	2 件	17 件	
養 豚	0 件	3 件	1 件	4 件	
養 鶏	0 件	0 件	0 件	0 件	
計	3 件	35 件	7 件	45 件	

(6) 情報提供体制事業

パソコン通信網を活用した総合的な畜産関係情報の提供を図るため、ネットワークの開設と各種情報のデータベースを構築し、畜産経営技術の高度化に対応した効率的な支援指導を実施した。

(7) 畜産経営セミナーの開催

畜産経営における生産基盤の強化等を図るため、飼養管理の改善及び販売戦略等をテーマにセミナーを開催した。

開催年月日	開催場所	参加 人数	セミナーの具体的内容
令和元年 7 月 26 日	大崎市	65 名	<ul style="list-style-type: none"> おいしい豚肉生産のためのワンポイントアドバイス (東北大学大学院 教授 鈴木 啓一 氏) 豚肉の肉質改善への取組みと課題 (㈱シムコ 育種技術部 部長 木全 誠 氏)
令和 2 年 2 月 26 日	大崎市	91 名	<ul style="list-style-type: none"> つなげよう 仙台牛へバトンタッチ (NOSAI 宮城 県北家畜診療センター 損防課 高橋 知也 氏) 農業共済制度の改正について

(8) 研修事業への参加

畜産経営指導事業並びに組織運営に必要な専門的知識及び技術の習得を図るため、中央畜産会等が主催する研修等に職員を派遣し、事業の円滑な推進に努めた。

開催年月日	開催場所	参加 人員	研修内容
令和元年 7 月 2 日～ 4 日	兵庫県 姫路市	2 名	第 10 回全国モーター母ちゃんの集い in 兵庫
令和元年 10 月 23 日～25 日	新潟県 新潟市	1 名	令和元年度経営指導技術向上事業に係る畜産経営指導従事者研修
令和元年 10 月 29 日～30 日	東京都	1 名	令和元年度畜産経営技術指導事業に係る女子職員向け研修会
令和元年 10 月 30 日～11 月 1 日	東京都	1 名	令和元年度畜産クラスターコーディネーター養成研修(A・B 研修)
令和元年 10 月 31 日～11 月 1 日	福島県 檜葉町	3 名	令和元年度北海道・東北ブロック職員等研修会

開催年月日	開催場所	参加人員	研修内容
令和元年 11 月 25 日	東京都	1 名	全国優良事例発表会
令和 2 年 2 月 4 日	福島県 西郷村	1 名	令和元年度中央畜産技術研修会 (自給飼料)

2 畜産経営技術指導事業 (地方競馬全国協会：実績額 10,384,000 円)

畜産農家の育成と経営の安定的発展を図るため、県並びに関係団体と連携の下に基幹職員を配置し、畜産経営指導並びに家畜改良指導及び畜産物消費拡大、馬事振興等の多岐に亘る業務を実施した。

- (1) 畜産の担い手育成・確保・増強に向けた体制強化を図った。
- (2) 地域畜産に対する理解増進等畜産関連公益活動体制の強化を図った。
- (3) 馬事・畜産普及啓発の推進体制の強化を図った。

3 畜産特別資金等推進指導事業 (中央畜産会：実績額 4,612,335 円)

畜産特別資金利子補給事業の円滑な実施を図るため、宮城県大家畜・養豚経営改善推進協議会を中心として、畜産特別資金借受者 8 戸 (酪農 4 戸、肉用牛 3 戸、養豚 1 戸) の農家に対し巡回指導を実施した。また、関係機関及び融資機関等を対象に研修会を実施し、経営の安定化に努めた。

開催年月日	開催場所	参加人数	研修内容
令和 2 年 2 月 19 日	大崎市	25 名	畜産特別資金の制度における借受者指導について (中央畜産会 資金・経営対策部 部長 富永 次郎 氏)

4 畜産機械施設貸付調査指導事業 (畜産近代化リース協会：実績額 349,179 円)

畜産近代化リース協会が行う、貸付事業の利用拡大を図るため、畜産経営者等に対し説明会を開催するとともに、貸付者の現地調査 (1 戸 4 機) を実施した。

5 畜産関係団体調整機能強化事業 (中央畜産会：実績額 1,183,750 円)

- (1) 生産者組織整備
酪農生産者ネットワークの構築を進め、会員増加を図るべく、研修会を行い情報提供意見交換会の計画を立てていたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止とした。
- (2) 畜産経営相談窓口整備
生産者及び関係機関からの各種相談に応じるため依頼先等へ出向き、畜産の振興を図った。

6 公庫資金活用推進事業 (農業経営サポート調査) (中央畜産会：実績額 66,000 円)

日本政策金融公庫資金の借入者 3 戸 (肉用牛肥育) に対して、経営課題抽出及び借入後の計画作成支援等を実施し、公庫資金の円滑な償還と経営の安定化を支援した。

7 肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業）

（農畜産業振興機構：実績 54,931,546 円）

近年における肉用牛生産を取り巻く状況を踏まえ、今後の肉用牛生産基盤の強化を図り、肉用牛の生産振興、生産性の向上を図る事業を支援するため、肉用牛生産集団等が行う事業に対し補助した。

区 分	事 業 内 容	農協・集団名
1 中核的担い手育成増頭推進	中核的担い手生産者が、増頭した繁殖雌牛への奨励金交付 (62 戸、215 頭)	みやぎ仙南、仙台、古川、加美よつば、新みやぎ、みやぎ登米、いしのまき、宮城県配合飼料価格安定基金協会（計 8 集団）
2 遺伝的多様性に配慮した改良基盤確保	地域の和牛改良に必要な優良繁殖雌牛の導入に対して奨励金交付 (33 戸、48 頭)	みやぎ仙南、古川、新みやぎ、みやぎ登米、みやぎ農業振興公社（計 5 集団）
3 優良繁殖雌牛導入支援	地域の和牛改良に必要な優良繁殖雌牛の導入に対して奨励金交付 (61 戸、108 頭)	みやぎ仙南、加美よつば、新みやぎ、みやぎ登米、みやぎ農業振興公社（計 5 集団）
4 繁殖雌牛の増頭に資する簡易牛舎等の整備	増頭を要件とする簡易牛舎及び器具機材の整備 (パイプハウス牛舎等 7 棟)	全国農業協同組合連合会宮城県本部 加美よつば（計 2 集団）
5 子牛の健康維持に資する器具機材	子牛の健康維持に資する器具機材の整備 (子牛用ヒーター 18 機)	みやぎ農業振興公社（計 1 集団）
6 肉用牛ヘルパー推進	肉用牛ヘルパー活動の推進 (傷害保険料、ヘルパー利用料金)	JA みどりの和牛繁殖部会 JA 栗っこ肉用牛ヘルパー部会 みやぎ登米肉用牛ヘルパー部会 (計 3 集団)

8 みやぎの子牛生産基盤復興支援事業（肉用牛生産拡大推進事業）

（宮城県：実績額 1,046,735 円）

東日本大震災及び放射能汚染事故、更には飼養者の高齢化等により減少した肉用牛の増頭を推進するため、相談窓口の設置及び講演会等を開催し、肉用牛経営の安定と生産基盤の育成強化に努めた。

(1) 肉用牛生産拡大相談窓口の開設

肉用牛生産拡大に向けた相談窓口を開設し、畜産経営体等から延 40 件の相談に応じた。

(2) 肉用牛生産拡大講演会の開催

生産者の意欲低下を回復させるために、肉用牛生産拡大のための講演会を開催した。

開催年月日	開催場所	参加人数	内 容
令和 2 年 2 月 26 日	大崎市	91 名	・つなげよう 仙台牛へバトンタッチ ・農業共済制度の改正について

(3) 啓発資材の作成

繁殖雌牛の増頭を推進するため、啓発資材として簡易牛舎事例集 (800 部) を作成し、関係者に配布した。

- 9 畜産クラスター全国推進事業に係る全国実態調査（中央畜産会：実績額 240,000 円）
 畜産クラスターにおける中心的経営体の指標作成に資するため、優良畜産経営体 3 戸（酪農 1 戸、肉用牛繁殖 1 戸、肉用牛肥育 1 戸）の経営実態調査を実施した。

- 10 畜産女性経営者育成強化事業（畜産女性経営者の地域育成支援事業）
 （中央畜産会：実績額 1,064,761 円）
 将来の畜産女性経営者の育成を図るため、畜産に携わる女性を対象に全国交流会等へ参加し、畜産現場での女性の活躍推進に努めた。

開催年月日	開催場所	参加人数	内 容
令和元年 6 月 17 日	青森県 七戸町 野辺地町	4 名	令和元年度畜産女性経営者の地域育成事業に係る東北地区畜産女性グループ交流会
令和元年 8 月 22 日～23 日	東京都	3 名	令和元年度全国畜産縦断いきいきネットワーク&令和元年度畜産女性経営者育成強化事業に係る全国シンポジウム
令和元年 11 月 13 日～14 日	愛媛県 松山市 四国中央市	4 名	令和元年度畜産女性経営者育成強化事業に係る畜産女性サポート力強化研修会

- 11 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(機械導入事業)に係る事業推進業務
 （中央畜産会：実績額 5,103,011 円）
 畜産クラスター事業の機械導入事業の円滑な推進を図るため、畜産クラスター協議会等を対象に事業説明会及び事業参加要望書等の取りまとめを行った。

宮城県内における事業参加要望書等の取りまとめ状況（令和 2 年 3 月末現在）

要望調査回次	協議会数	要望件数	申請書提出件数	実績報告書提出件数
H29 年第 1 回目	9 協議会	199 人、 348 機	80 人、 135 機	64 人、 110 機
H29 年第 2 回目	10 協議会	146 人、 233 機	55 人、 79 機	46 人、 62 機
H30 年第 1 回目	9 協議会	170 人、 277 機	125 人、 208 機	86 人、 141 機
H30 年第 2 回目	6 協議会	95 人、 255 機	2 人、 2 機	2 人、 2 機
R 1 年第 1 回目	10 協議会	125 人、 282 機	2 人、 8 機	0 人、 0 機
計	実 12 協議会	延 735 人、 1,395 機	264 人、 432 機	198 人、 315 機

- 12 畜産・酪農生産力強化対策事業（家畜生産性向上対策事業）
 （中央畜産会：実績額 701,239 円）
 家畜の生産性向上に係るデータ等の収集、分析及び技術指導を肉用牛繁殖 8 戸（新規就農者 6 戸・後継者 2 戸）に対し実施し、家畜の生産性向上を図った。

- 13 畜産経営体生産性向上対策事業（ICT化等機械装置等導入事業）に係る事業推進業務
（中央畜産会：実績額 1,003,393 円）

畜産経営体生産性向上対策事業（通称：ICT事業）の機械導入の円滑な推進を図るため、畜産ICT応援会議を対象に事業説明会、事業参加要望書取りまとめ及び現地確認等を実施した。

宮城県内における機械導入状況（令和元年度）

ICT 応援会議	経営体数	導入機械	機械価格 (税抜)	補助金額
みやぎの酪農協 畜産クラスター 協議会	7 戸	搾乳ユニット搬送レール自動 3 機 搾乳ユニット搬送レール手動 3 機 ミルカー自動離脱装置 3 機 自動給餌機 1 機 自走式配餌車 1 機 餌寄せロボット 1 機	75,790 千円	37,895 千円
計	7 戸	12 機	75,790 千円	37,895 千円

- 14 酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業に係る事業推進業務

（中央畜産会：実績額 884,274 円）

酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（通称：楽酪 GO 事業）の円滑な推進を図るため、楽酪応援会議を対象に事業説明、事業参加要望書取りまとめ及び現地確認等を実施した。

宮城県内における実施状況（令和元年度）

楽酪応援会議	経営体数	内 容	機械価格 (税抜)	補助金額
みやぎの酪農協 畜産クラスター協議会	1 戸	牛乳処理施設改修工事	341 千円	157 千円

15. 肉用牛経営災害緊急支援対策事業（農畜産業振興機構：実績額 2,295,219 円）

令和元年台風第 19 号の災害により、被害を受けた肉用牛経営に対して、繁殖雌牛の導入費用の一部を補助し、経営継続を支援した。

生産者集団	戸数	頭数	事業内容	補助金額(円)
新みやぎ農協(あさひな地区)	1 戸	8 頭	繁殖雌牛の導入	2,058,500

16. 養豚経営災害緊急支援対策事業（農畜産業振興機構：実績額 5,628,430 円）

令和元年台風第 19 号の災害により、被害を受けた養豚経営に対して場内流入の土砂撤去及び排水管の補改修に係る費用の一部を補助し、経営継続を支援した。

農場所在地	戸数	事業内容	補助金額(円)
丸森町	2 戸	土砂撤去、排水管の補改修	4,529,291

17. 粗飼料確保緊急対策事業（農畜産業振興機構：実績額 3,835,584 円）

令和元年台風第 19 号の災害により、稲わら等の自給飼料が不足する酪農経営 1 戸、肉用牛経営 68 戸に対して生産者集団等をとおして、不足する代替粗飼料購入経費の一部を補助し、経営継続を支援した。

生産者集団	戸数 (戸)	補助対象代替 飼料購入量(kg)	補助金額(円)	
			機構	宮城県
みやぎ仙南農協	7	15,047	75,235	75,235
名取岩沼農協	1	2,045	10,225	10,225
新みやぎ農協(みどりの地区)	47	111,928	559,640	559,640
新みやぎ農協(栗っこ地区)	8	15,523	77,615	77,615
みやぎ登米農協	1	20,500	102,500	102,500
宮城県配飼協粗飼料確保対策緊急連絡会議	5	432,000	2,160,000	1,939,785
計	69	597,043	2,985,215	2,765,000

Ⅲ 家畜衛生対策事業

1 特定疾病自衛防疫推進事業（協会独自事業：実績額 130,591,970 円）

家畜伝染病の発生予防及びまん延防止のため、地域ぐるみで予防接種を推進し、伝染病発生による損耗防止に努めた。

予防接種の種類	地域別接種頭数（頭）						合計
	仙南	中央	大崎	栗原	登米	石巻	
(1) 豚丹毒ワクチン（生）	1,831	0	0	4,690	13,312	0	19,833
(2) 豚丹毒ワクチン（不）	28,745	0	1,200	0	0	0	29,945
(3) 豚日本脳炎ワクチン（不）	0	0	0	0	2	0	2
(4) 豚三種混合ワクチン（生）	180	0	143	11	115	40	489
(5) 豚伝染性胃腸炎・流行性下痢混合ワクチン（生）	0	0	0	0	606	0	606
(6) 牛アカバネ病ワクチン（生）	2,347	1,701	8,287	3,348	5,410	1,230	22,323
(7) 牛五種混合ワクチン（生）	1,212	887	5,310	3,114	4,828	1,006	16,357
(8) 牛ヘモフィルスワクチン（不）	382	328	1,680	1,348	4,562	328	8,628
(9) 牛五種混合・ヘモフィルス混合	837	550	3,233	1,608	0	658	6,886

2 自衛防疫推進事業（協会独自事業：実績額 3,222,948 円）

自衛防疫事業を円滑に推進するため、自衛防疫推進会議並びに各地域指定獣医師定例会を開催し、家畜衛生に関する知識の普及や情報の収集・伝達に努めた。

（1）家畜自衛防疫推進会議等の開催状況

名称	場所	開催回数	出席人数	備考
① 家畜自衛防疫推進会議	仙台市内	3回	67人	県、家畜保健衛生所職員等
② 家畜衛生専門委員会	〃	2回	33人	県、家畜保健衛生所長等

（2）指定獣医師定例会の開催状況

地域名	場所	開催回数	出席人数	内容
仙南	大河原町	3回	29人	①平成30年度特定疾病自衛防疫推進事業実績 ②令和元年度特定疾病自衛防疫推進事業計画及び進捗状況 ③最近の家畜衛生情報 ④子牛市場成績等
中央	仙台市	3回	27人	
大崎	大崎市	3回	41人	
栗原	栗原市	3回	34人	
登米	登米市	3回	28人	
石巻	石巻市	3回	30人	
合計		18回	189人	

(3) 家畜自衛防疫事業推進事務交付金交付実績

交付先	交付金額	備 考
市町村 (30) 及び 農業協同組合 (13)	1, 141, 500 円	注射負担金額 (牛アカバネ病等) 114, 373, 640 円×1%以内

(4) 予防接種事故見舞金交付件数

予防接種の種類	畜種	交付件数
牛五種混合(生)	牛 (肉用牛)	1 件
牛ヘモフィルス(不)	牛 (肉用牛)	2 件
合 計		3 件

3 家畜生産農場衛生対策事業 (農林水産省：実績額 7, 672, 815 円)

生産農場における疾病の清浄化及び組織的な取組による疾病流行防止のため、牛白血病ほかの清浄化等に向けた取組を支援した。

(1) 疾病清浄化支援対策

牛白血病について、検査に対する支援を行い、早期清浄化及び清浄化維持の促進に努めた。

区 分	戸数	頭数
① 対策実施農場における対策	4 戸	451 頭
② 共同放牧場等における対策	144 戸	828 頭

(2) 農場飼養衛生管理強化対策

家畜伝染病予防法の一部改正により、生産者の遵守すべき飼養衛生管理基準が大幅に見直され、生産者に対し同基準を早期に周知するため、獣医師等による衛生指導の強化を図り、これら費用の一部を支援した。

地 域	農家戸数	指導回数	備 考
中 央	29 戸	29 戸×1 回	酪農(19)、肉用牛(10)
登 米	40 戸	40 戸×1 回	肉用牛(28)、養豚 (12)
計	69 戸	69 回	

4 牛疾病検査円滑化推進対策事業 (農林水産省：実績額 11, 564, 930 円)

我が国の牛海綿状脳症 (BSE) 対策の有効性を監視し、生産者や消費者の安心と信頼を確保維持するため、牛海綿状脳症対策特別措置法に基づく、96 カ月齢以上の死亡牛等の全頭検査を実施した所有者等に対し、管理・輸送・処理に係る経費を補助し、BSE 検査の円滑な推進に努めた。

また、県畜産課、家畜保健衛生所、県域団体、死亡牛収集運搬業者等で構成する宮城県死亡牛緊急処理円滑化施設整備事業推進協議会を開催し、死亡牛の円滑な収集運搬及び処理のための取組と良好な家畜衛生並びに環境の維持を図り、畜産の健全な発展に努めた。

(1) 死亡牛検査処理安定対策

区 分	補助対象頭数 及び 単価			金 額
	県北地域	県南地域	計	
① 輸送促進費	388 頭 成 牛:387 頭 ×@4,500 円 育成牛: 1 頭 ×@3,150 円	142 頭 成 牛:140 頭 ×@4,000 円 育成牛: 2 頭 ×@2,800 円	530 頭	県北地域: 1,744,650 円 県南地域: 565,600 円
② 適正処理費	388 頭 成 牛:387 頭 ×@7,500 円 育成牛: 1 頭 ×@5,000 円	0 頭	388 頭	県北地域: 2,907,500 円
合 計				5,217,750 円

* 補助対象外頭数: 10 頭 (県北: 10 頭、県南 0 頭)

(2) 死亡牛検査支援対策

区 分	補助対象頭数			単 価	金 額
	県北地域	県南地域	計		
BSE 検査費補助	371 頭	142 頭	513 頭	4,500 円	2,308,500 円

* 補助対象外頭数: 27 頭 (県北: 27 頭、県南: 0 頭)

5 畜産物衛生環境整備円滑化事業 (協会事業、宮城県: 実績額 12,140,755 円)

県内で発生する死亡家畜の処理を円滑かつ効率的に推進するため、一時保管する冷却保管施設及び冷凍運搬車の利用について、死亡牛輸送業者 3 社及び関係者と協議し、家畜疾病のまん延防止を図り、家畜飼養衛生環境の保全に努めるとともに、老朽化に伴う施設の修繕・改修等の工事を行った。

また、96 カ月齢以上の死亡牛等の BSE 全頭検査の採材場所として「宮城県死亡獣畜取扱施設」を利用し、県が実施する検査の円滑な推進を支援した。

(1) 家畜死体冷却保管施設利用頭数

区 分	成牛	育成牛	子牛	豚	馬	綿羊・山羊等	計
頭数 (頭)	392	2,324	2,017	4,090	11	38	8,872
重量 (t)	196.00	697.20	201.70	368.10	4.40	3.23	1,470.63
1 日平均	頭数 (頭)	1.07	6.37	5.53	11.21	0.03	24.31
	重量 (t)	0.54	1.91	0.55	1.01	0.01	4.03

(2) 死亡獣畜取扱施設の利用状況

畜 種	取扱頭数	取扱対象牛	BSE 検査結果	備 考
牛	398 頭 (388 頭)	96 カ月齢以上の死亡牛等	全頭陰性	() 内は補助対象頭数

(3) 家畜死体冷凍運搬車利用頭数

畜種	利用頭数	利用対象牛	BSE 検査結果	備考
牛	142 頭 (142 頭)	96 カ月齢以上の死亡牛等	全頭陰性	() 内は補助対象頭数

(4) 施設の修繕・改修等

修繕・改修工事等	
1	冷蔵庫 高圧洗浄機
2	冷蔵庫 BSE 採材用ガス器具修理
3	冷蔵庫 入口シャッター修理
4	冷蔵庫 レール交換
5	冷蔵庫 事務室エアコン室外機移設修繕
6	冷凍運搬車 扉・水抜栓修理
7	冷凍運搬車 エバポレーター修理

6 家畜防疫・衛生指導対策事業 (中央畜産会：実績額 7,203,307 円)

(1) 地域自衛防疫推進事業

地域での伝染病発生時の対応等を支援するため、伝染性疾病の発生に備えた防疫演習や飼養衛生管理基準に基づく防疫対策への取り組みの啓発等の検討を行うとともに、生産者段階での防疫演習等の実施、生産現場における家畜防疫体制の強化を図ることにより、伝染性疾病の発生予防等防疫措置の徹底に努めた。

区分	開催月日	開催場所	人数	備考
防疫演習	令和元年 7 月 30 日	仙台市青葉区	176 名	生産者、市町村、農協・畜産団体、建設業協会、警察、県職員(畜産課、家保、農業関係、土木、一般職員等)
	令和元年 10 月 9 日	大崎市古川	67 名	
	令和元年 10 月 29 日	仙台市青葉区	148 名	
	令和元年 11 月 1 日	石巻市	128 名	
	令和元年 11 月 6 日	登米市迫町	78 名	
	令和元年 11 月 8 日	登米市東和町	119 名	
	令和 2 年 1 月 14 日, 15 日, 16 日	遠田郡美里町	171 名	

(2) 地域農場 HACCP 認証支援事業

県内における農場 HACCP 認証に取り組む農場及び認証取得農場が継続的改善を図ることに対し、専門家による構築指導等を行い、地域に農場 HACCP 取組の中核となる農家を育成し、普及推進を図り、肉用牛で 1 戸 1 農場、豚で 1 戸 2 農場が認証された。

区分	実績	備考
地域取組促進活動	2 回	研修会開催 生産者等 38 名参加
構築指導意見交換	2 戸	養豚：2 農場
構築指導	6 戸	肉用牛：1 農場、乳用牛：1 農場 養豚：3 農場、養鶏：1 農場

7 育成馬等予防接種推進事業（中央畜産会：実績額 118,034 円）

馬飼養形態の集団化、大規模化及び頻繁な移動等の実態を踏まえ、生産地の繁殖牝馬について予防接種（馬インフルエンザ）の徹底を図った。

ワクチンの種類	接種戸数	接種頭数
馬インフルエンザワクチン（1歳補強）	1戸	2頭
馬インフルエンザワクチン（繁殖牝馬）	3戸	4頭

8 馬伝染性疾病防疫推進対策事業（中央畜産会：実績額 761,044 円）

馬生産地における伝染性疾病の防疫強化を図るため、馬ワクチン接種等地域推進対策検討会を開催し、乗用馬を対象とした馬インフルエンザワクチン接種及び軽種馬等の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種を推進した。

(1) 馬防疫強化地域推進対策事業

区分	開催期日	開催場所	出席人数
地域推進対策会議	令和元年8月29日	加美町	8名
	令和2年1月29日	仙台市	23名

(2) 馬のワクチン接種推進事業

ワクチンの種類	対象馬	接種戸数	接種頭数
馬インフルエンザワクチン	競走馬以外の乗用馬	6戸	111頭
馬鼻肺炎ワクチン	軽種馬等の繁殖牝馬	3戸	8頭

9 家畜防疫互助基金支援事業（農畜産業振興機構：実績額 3,064,774 円）

口蹄疫や豚熱等の越境性動物疾病が発生した場合、生産者による自主的な互助制度により生産者が飼養する牛及び豚の淘汰に伴う畜産経営への影響を緩和するため、各関係者と連携を図り、本制度の普及啓蒙を図った。

特に、最近、中国や台湾において口蹄疫等が継続的に発生しており、国内への病原体の侵入が懸念されるので、事務委託先等を通じて未加入者の加入を推進した。

(1) 事業実施期間：平成30年度～令和2年度（3年間）

(2) 事務委託先：農協及び酪農団体等 18団体

(3) 契約状況（令和2年3月31日現在）

畜種	契約戸数	契約頭数	積立金額
① 乳用牛	2,525戸	18,479頭	3,673,225円
② 肉用牛		78,181頭	11,302,410円
小計（①+②）		96,660頭	14,975,635円
③ 豚	64戸	174,033頭	28,855,290円
合計	2,589戸	270,693頭	43,830,925円

10 宮城県生乳取扱者認定講習会及びフォローアップ研修事業

(酪農団体：実績額 771,004 円)

(1) 認定委員会

学識経験者及び酪農団体の長を認定委員に委嘱し、令和元年度事業計画及び宮城県生乳取扱者の認定等について、委員会を開催した。

開催月日	場 所	出席人	内 容
令和元年 8月26日	日立システムズホール仙台	7名	① 認定委員委嘱状交付 ② 平成30年度生乳取扱者研修事業実績 ③ 令和元年度生乳取扱者研修事業計画
令和元年 11月21日	ホテル白萩	9名	① 令和元年度生乳取扱者の認定 (試験結果及び合否の判定) ② フォローアップ研修会の開催計画

(2) 認定講習会

宮城県における生乳の乳質改善と今後の生乳品質格付け方法の多様化に対処するため、生乳取扱者の生乳等に関する知識及び総合的検査技術の向上と県内統一した基準に基づく生乳の検査、衛生的取扱の適正化を推進するため、講習会を開催し、11名に認定証の交付を行った。

開催月日	場 所	受講人数	講 習 内 容
令和元年 10月23日 ～24日	仙台市 戦災復興 記念館	11名	①酪農乳業情勢 ②食品衛生法(乳等省令等) ③生乳の理化学的性状 ④生乳の微生物と品質管理 ⑤生乳検査体制と検査方法 ⑥試験

(3) フォローアップ研修会

宮城県内における酪農乳業団体に所属し、受乳、検査、格付及び乳質改善指導等の業務に従事している職員を対象に、研修会及び意見交換会を実施した。

開催月日	場 所	出席人数	研 修 内 容
令和2年 1月10日	仙台市 ホテル白萩	36名	① 生乳の科学と成分検査技術について (東北大学 名誉教授 齋藤 忠夫氏) ② 酪農経営の支援対策について (宮城県農政部 畜産課 技術補佐(班長) 鈴木 徳彦氏) ③ 食品衛生法(乳等省令)について (宮城県環境生活部 食と暮らしの安全推進課 技術主幹 植田 郁恵氏) ④ 意見交換会

11 日本版畜産GAP(JGAP)指導推進支援事業(中央畜産会：実績額 570,214 円)

国産畜産物に対する評価の向上を目的とした日本版畜産GAPの認証について、その取得を目指す生産者及び指導員育成のための研修会を開催し、畜産GAPの拡大を図った。

区 分	開催月日	出席 人数	内 容
指導員養成研修会	令和元年 7 月 17 日～18 日	3 名	地域の農場指導に取り組む指導員を養成する研修会に参加した
生産現場における研修会	令和元年 10 月 25 日	40 名	アニマルウェルフェアについて 奥羽牧場における JGAP 認証取得への道のり

12 獣医師養成確保修学資金貸与事業（農林水産省：実績額 2,715,904 円）

獣医学を専攻する学生のうち産業動物獣医師を志す者 1 名に対し、獣医師養成確保修学資金を給し有能な産業動物獣医師の養成及び確保を図り、宮城県産業動物の診療体制の整備と畜産振興に寄与した。

13 A S F 侵入防止緊急支援事業（農畜産業振興機構：実績額は令和 2 年度で計上）

養豚経営体が地域侵入防止計画に基づき野生動物の侵入に対する防護柵を整備する場合に、その負担の軽減を図るため、当該柵の施設整備に対する支援を行った。

なお、当該柵の施設整備に必要な費用の助成については、工事が完了していない養豚経営体があり、令和 2 年度の事業経費として処理することとしている。

IV 家畜価格安定対策事業

1 肉用子牛生産者補給金制度（農畜産業振興機構）

肉用子牛の価格が低落し、保証基準価格を下回った場合に生産者に対し生産者補給金を交付するため生産者積立金を造成し肉用子牛生産の安定を図った。

（令和2年3月31日現在の契約生産者は 2,897 戸）

(1) 生産者積立金の造成（実績額 33,686,400 円）

生産者、宮城県、国の三者が 1:1:2 の割合で生産者補給金の交付に備え、生産者積立金を造成した。

令和元年度生産者積立金造成対象期間：平成31年1月1日～令和元年12月31日

品種区分	契約頭数 (頭)	積立金 単価 (円)	積立額 (円)	負担区分 (円)		
				生産者	宮城県	農畜産業振興機構
黒毛和種	17,707	1,200	21,248,400	5,312,100	5,312,100	10,624,200
褐毛和種	54	4,600	248,400	62,100	62,100	124,200
その他肉専	0	12,400	0	0	0	0
乳用種	480	6,400	3,072,000	768,000	768,000	1,536,000
交雑種	3,799	2,400	9,117,600	2,279,400	2,279,400	4,558,800
合計	22,040	—	33,686,400	8,421,600	8,421,600	16,843,200

(2) 肉用子牛生産者補給金の交付実績（実績額 33,200 円）

令和元年度は、黒毛和種、褐毛和種、乳用種、交雑種において、四半期毎平均売買価格が保証基準価格を下回らず発動はなかった。その他肉専用種は全期において発動したが、本県では第1・四半期のみ該当し肉用子牛生産者補給金を交付した。

交付対象期間	対象品種	補給金単価	対象頭数	対象生産者数	補給金交付額
第1・四半期	その他肉専用種	33,200 円	1 頭	1 人	33,200 円

参考：保証基準価格・合理化目標価格・平均売買価格

(単位：円)

区分		黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準 価 格	R1.9.30 以前	531,000	489,000	314,000	161,000	269,000
	R1.10.1 以降	541,000	498,000	320,000	164,000	274,000
合理化目標 価 格	R1.9.30 以前	421,000	388,000	249,000	108,000	212,000
	R1.10.1 以降	429,000	395,000	253,000	110,000	216,000
平均売買 価 格	第1・四半期	781,500	547,700	280,800	239,100	447,400
	第2・四半期	764,300	606,300	257,400	228,100	420,000
	第3・四半期	759,900	630,800	294,100	240,300	419,600
	第4・四半期	718,900	583,500	243,900	249,100	425,400

※ は発動あり。

2 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業（農畜産業振興機構）

(1) 運営適正化事業（実績額 22,669,604 円）

補給金制度の適正かつ円滑な運営を図るため業務推進会議の開催、事務委託先及び契約生産者に対し調査・指導を実施し、本制度加入の促進及び個体登録業務等の正確かつ迅速化に努めた。また、全国の品種別平均売買価格の算定に資するため、みやぎ総合家畜市場の肉用子牛取引情報を収集し（独）農畜産業振興機構へ毎月報告した。

(2) 運営体制支援事業（実績額 13,541,550 円）

肉用子牛生産者補給金制度を適正かつ円滑に実施するため、指定協会の運営体制の強化を図った。

3 肉用牛肥育経営安定交付金制度（農畜産業振興機構）

肉用牛の枝肉価格が低落し、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に差額分の9割を交付するため、生産者積立金を造成し、肥育経営の安定を図った。

令和元年度における品種別交付頭数は、肉専用種 1,106 頭、交雑種 362 頭、乳用種 29 頭、合計 1,497 頭となり、延べ 314 戸に対して農畜産業振興機構交付金と肉用牛肥育安定基金取崩し額を合せて 37,422,029 円を交付した。

(1) 推進事務費（実績額 16,011,000 円）

(2) 肉用牛肥育安定基金の造成（実績額 203,295,000 円）

令和元年度造成対象期間：平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

品 種 区 分	生産者積立金		
	生産者積立金 造成頭数(頭) ①	生産者積立金 単価(円) ②	造成額 (円) ③=①×②
肉専用種	21,731	6,000	130,386,000
交 雑 種	4,253	17,000	72,301,000
乳 用 種	32	19,000	608,000
合 計	26,016		203,295,000

(3) 令和元年度肥育牛交付金交付実績総括表

販売月	品種区分	交付対象		肥育牛補てん金	
		人数 (人)	頭数 (頭) ①	単価 (円) ②	金額 (円) ①×②
平成 31 年 1 月 (精算払)	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	0	0	0.0	0
	乳用種	3	9	3,816.4	34,346
	計	実 3	9		34,346
平成 31 年 2 月	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	0	0	0.0	0
	乳用種	1	1	64,769.4	64,769
	計	実 1	1		64,769
平成 31 年 3 月	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	0	0	0.0	0
	乳用種	1	2	74,024.1	148,048
	計	実 1	2		148,048
平成 31 年 4 月	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	0	0	0.0	0
	乳用種	2	8	42,722.1	341,776
	計	実 2	8		341,776
令和元年 5 月	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	0	0	0.0	0
	乳用種	0	0	30,806.1	0
	計	実 0	0		0
令和元年 6 月	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	0	0	0.0	0
	乳用種	0	0	31,029.3	0
	計	実 0	0		0
令和元年 7 月	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	0	0	0.0	0
	乳用種	0	0	35,702.1	0
	計	実 0	0		0
令和元年 8 月	肉専用種	263	1,106	30,719.7	33,975,854
	交雑種	0	0	0.0	0
	乳用種	2	3	26,905.5	80,716
	計	実 265	1,109		34,056,570
令和元年 9 月	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	0	0	0.0	0
	乳用種	0	0	28,826.1	0
	計	実 0	0		0
令和元年 10 月	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	19	157	15,271.2	2,397,572
	乳用種	1	1	48,722.4	48,722
	計	実 20	158		2,446,294
令和元年 11 月	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	18	205	356.4	73,054
	乳用種	2	2	53,726.4	107,452
	計	実 20	207		180,506

販売月	品種区分	交付対象		肥育牛補てん金	
		人数 (人)	頭数 (頭) ①	単価 (円) ②	金額 (円) ①×②
令和元年 12 月	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	0	0	0.0	0
	乳用種	1	1	63,042.3	63,042
	計	実 1	1		63,042
令和 2 年 1 月 (概算払)	肉専用種	0	0	0.0	0
	交雑種	0	0	0.0	0
	乳用種	1	2	43,339.1	86,678
	計	実 1	2		86,678
合計	肉専用種	延べ 263	1,106		33,975,854
	交雑種	延べ 37	362		2,470,626
	乳用種	延べ 14	29		975,549
	合計	延べ 314	1,497		37,422,029

(4) 緊急支援金等返還業務

緊急支援金等交付対象者へ返還請求書を発行し、農畜産業振興機構への返還業務を実施した。

①緊急支援金等交付実績

資金名	対象者数(人)	交付頭数(頭)	交付金額(円)
緊急支援金	501	37,026	1,851,300,000
出荷遅延支援金	315	7,958	5,758,440,000
価格低下支援金	61	510	79,630,000
計	延べ 877	45,494	7,689,370,000

②返還額(生産者からの返還額)

(令和 2 年 3 月 31 日現在)

資金名	返還済額(円)			未返還額(円)
	H23~30年度	R1年度	計	
緊急支援金	1,851,300,000	0	1,851,300,000	0
出荷遅延支援金	5,729,390,000	4,150,000	5,733,540,000	24,900,000
価格低下支援金	79,630,000	0	79,630,000	0
預り金	1,909,043	1,729,669	3,638,712	▲3,638,712
計	7,662,229,043	5,879,669	7,668,108,712	21,261,288
未返還者からの 受取利息 (H27年10月から)	3,109,654	107,331	3,216,985	

4 肉豚経営安定交付金制度(農畜産業振興機構:実績額 992,843円)

肉豚経営安定交付金制度の円滑な推進を図るため、養豚事業者等を対象とした事業説明会を行うとともに、養豚関係者からの問い合わせに随時対応した。

内 容	開催日	開催場所	参集者
事業説明会	令和元年5月10日	大崎合同庁舎	生産者他 14名
	令和元年5月13日	大河原合同庁舎	〃 10名
	令和元年5月14日	登米合同庁舎	〃 20名

5 肉豚経営安定交付金制度（生産者委託：実績額 661,594円）

肉豚経営安定交付金制度の円滑な推進を図るため、養豚生産者15戸との事務委託契約に基づき、書類申請及び関係書類保管等に関する助言指導等を実施し、養豚経営の安定に資した。

6 肉牛事故共助推進事業（全農宮城県本部：実績額 79,837,000円）

肉用牛生産者並びに出荷者団体からなる基金を造成し、全農宮城県本部が販売する肉牛に発生する事故に対しその損害を補償し、肉牛経営の安定を図った。

(1) 肉牛事故共助推進事業費 1,092,245円

(2) 肉牛事故共助金 78,744,755円

品種	頭数	金額
肉専用種	901	77,850,279
乳用種	17	625,585
交雑種	1	268,891
計	919	78,744,755

(3) 肉牛事故共助積立基金

(円)

前年度繰越額 A	受取積立額 B	受取利息 C	交付額 D	今年度基金残高 A+B+C-D
9,257,939	85,934,495	129	78,744,755	16,447,808

V 家畜改良対策事業

1 家畜人工授精用精液流通調整事業（協会独自事業：実績額 189,105,156 円）

本県の家畜改良を円滑に推進し、乳牛及び和牛の生産拡大を図るため、宮城県畜産試験場繋養の種雄牛を主体に、県内7ヶ所のサブセンターにおいて、家畜人工授精師等に対し凍結精液の供給と液体窒素の配送を行うとともに、計画的交配の指導を実施し、家畜の改良増殖の推進と畜産経営の安定と発展に資した。

凍結精液供給本数

和 牛			乳 牛	液体窒素	備 考
県有牛	事業団等	計	事業団等		
本 24,759	本 10,067	本 34,826	本 4,457	kg 44,270	

2 宮城県総合畜産共進会（協会独自事業：実績額 3,080,172 円）

家畜の改良意欲の高揚と飼養管理技術の向上を図るため、乳用牛、肉用牛、肉豚を対象とした総合畜産共進会を開催した。

区 分	開催年月日	開催場所	出品頭数
肉 豚	令和元年9月4日～6日	登米市 宮城県食肉流通公社	102頭
肉用牛	令和元年9月13日～14日	美里町 みやぎ総合家畜市場	74頭
乳用牛	令和元年9月25日		37頭

3 種豚登録関連事業（日本養豚協会：実績額 465,788 円）

近年の養豚生産構造の変化に対処するため、登録関連制度の普及啓蒙と質的向上を図るため登録対象豚の選抜並びに適正な登録事業を推進した。

また、交配品種の多様化に伴う素豚の品質低下を防止するため、一代雑種豚血統証明等を含めた種豚登録事業を推進した。

登記・登録実績 (件)

区 分	種豚 登録	一腹 記録	子豚 登記	一代雑種豚 血統証明	各 種 移動証明	系統種豚 証明
実 績	84	192	234	71	0	10

4 乳用牛群検定普及定着化事業（宮城県：実績額 505,239 円）

牛群検定加入者の推進を図るため、4名に検定推進を依頼し、県内の非検定農家を対象に巡回推進を行うとともに、併せて既検定農家の巡回指導を実施した。

（非検定農家推進戸数6戸、既検定農家巡回指導4戸）

5 乳用種雄牛後代検定事業（家畜改良事業団：実績額 113,400 円）

遺伝的に優れた能力を有することが証明された種雄牛（検定済種雄牛）を計画的に作出し、広域的な利用を行う精液の保管と配布を行った。（調整交配配布本数 546 本）

VI その他

1 専門委員会

家畜衛生事業、和牛改良事業の推進に係る懸案事項について検討するため、各専門委員会を設置し事業の円滑な推進を図った。

2 褒賞の授与

畜産に関する各種共進会、共励会において成績優秀な者に対し褒賞を授与した。

3 畜産普及広報活動

(1) 県内の畜産情報並びに技術の普及拡大を図るため、「畜産みやぎ」を年6回発行した。

(2) 月刊「畜産コンサルタント」誌並びに指導資料を配布し、畜産技術の普及啓蒙を図った。

4 令和元年度役職員の異動状況

(1) 役員の状況

区 分	R 1 年度当初	辞任	退任	就任	R 2 年度当初
理事	14	3	0	2	13
監事	3	0	0	0	3
計	17	3	0	2	16

辞任理事：高橋 久則、末永 朗、吉尾 三郎

就任理事：中鉢 正信、渡邊 清博

(2) 職員の状況

区 分	R 1 年度当初	R 2 年度当初	増 減
正職員	15	18	3
再雇用者	3	3	
嘱託職員	2	2	
臨時職員	11	10	△1
計	31	33	2